

1 策定の目的・対象範囲

1-1 策定の目的

天平の丘公園は、当初、国分尼寺跡公園として整備され、後に平地林の保全、下野国分寺・国分尼寺跡などの地域特性を活かした公園として、昭和63年から5か年をかけて整備されたものです。

開園当時は、レストハウスしもつけの北側広場を会場として「天平の花まつり」を開催していましたが、隣接の運動広場を埋め立て造成し、平成6年4月に野外ステージやトイレを含めた現在の花広場を整備しました。

本公園は、春には、淡墨桜をはじめ、三春の滝桜、山高神代桜、石割桜、八重桜など約470本の多様な桜が咲き誇るなど桜の名所として知られ、3月下旬から5月上旬まで開催する「天平の花まつり」では、多くの観光客が訪れています。

秋には、直径2.5メートルの関東最大級の大鍋を使った「天平の芋煮会」が行われるなど、花広場では大小様々なイベントが開催されています。

また、民俗資料館として移築された江戸末期の古民家を、平成30年に古民家カフェにリノベーションし、新たな人の流れができています。

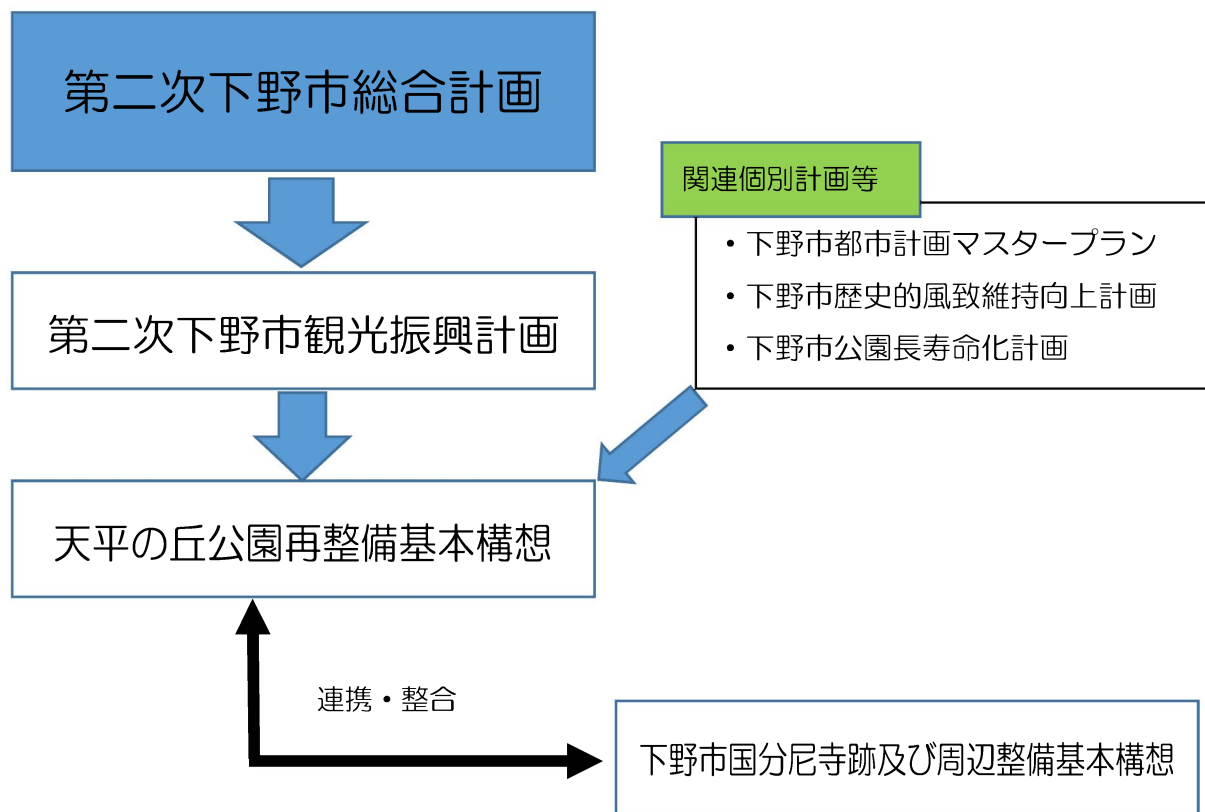
しかしながら、昭和60年代にハード整備が行われた駐車場やトイレ、休憩所等は、整備から30年余りが経過し、施設の老朽化や多様化する観光客のニーズに対応できていない状況が見られます。また、平成31年4月施行の改正文化財保護法により文化財のあり方は、「保存・保護」から「保存・保護しつつ活用」へとシフトされました。

上記を踏まえ、平成24年3月に策定された「下野国分尼寺跡及び周辺整備基本構想」との整合を図りつつ、1年をとおしてたくさんの利用者が訪れるような魅力的な公園になることを目的に策定するものです。



1-2 基本構想の位置づけ

本構想は、第二次下野市観光振興計画の基本施策1「魅力ある観光の推進」の施策1-3「観光施設的环境整備・充実」の事業(1)「天平の丘公園再整備」に関し整備方針等を定めるため、「下野市国分尼寺跡及び周辺整備基本構想」に記載の事項に沿って策定するものになります。



1-3 天平の丘公園概要及び本構想の対象範囲

天平の丘公園の概要

項目	面積(m ²)	主な施設
対象エリア合計	208,471	
下野国分尼寺跡	28,080	淡墨桜
風土記の丘資料館周辺	10,221	しもつけ風土記の丘資料館
花広場・聖武館	11,357	花広場、聖武館、トイレ
西駐車場	35,555	
東駐車場	5,230	
夜明け前・山林	118,028	民俗資料館(古民家カフェ) 夜明け前、秋山亭、四阿、トイレ等
下野国分寺跡(参考)	64,504	
天平の丘公園全体	272,975	

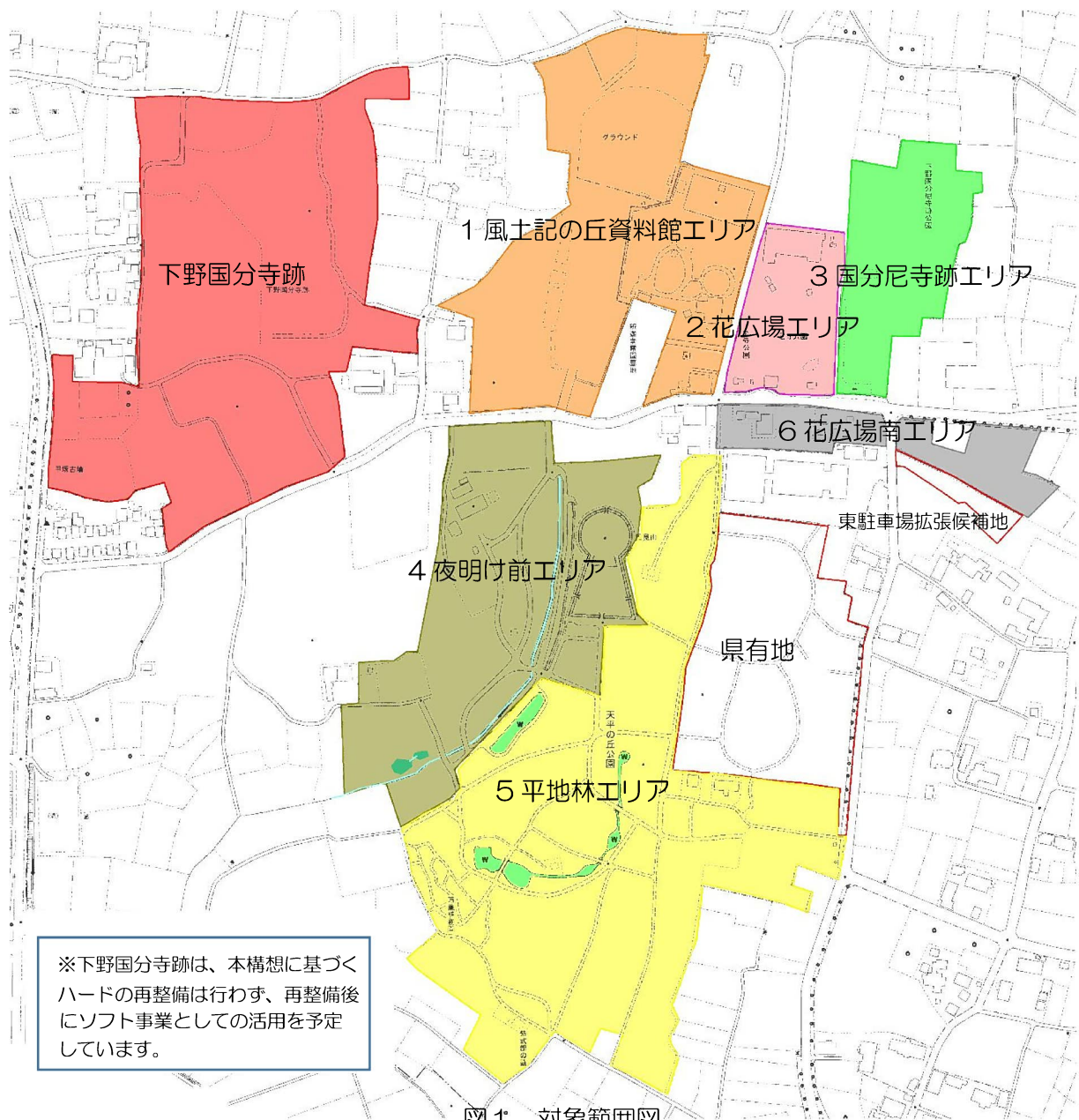


図1 対象範囲図

ゾーンエリア名称	ゾーンエリアの説明（現状）
1 風土記の丘資料館エリア	天平の丘公園北部中央に位置し、下野国分寺跡・国分尼寺跡、花まつり会場にアクセス可能な駐車場を擁するエリア
2 花広場エリア	天平の花まつり・芋煮会のメイン会場となるエリア
3 国分尼寺跡エリア	国分尼寺跡地であり、淡墨桜が植えられているエリア
4 夜明け前エリア	起伏のある丘や古民家カフェ、国見山などがあり、しもつけ燈桜会のメイン会場となるエリア
5 平地林エリア	平地林内に園路があり、主に散策に活用されているエリア
6 花広場南エリア	花広場の南側に位置し、十月桜が植えられているエリア